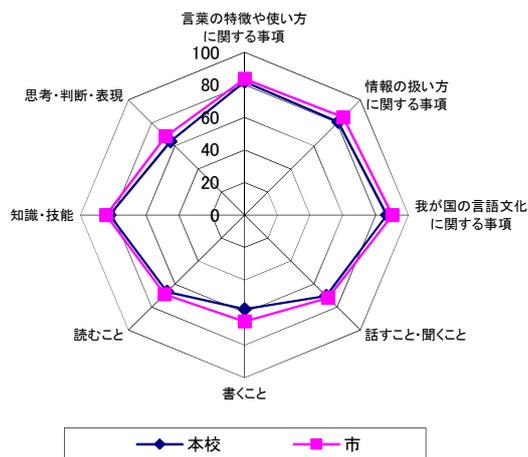


宇都宮市立若松原中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	81.9	83.6	80.3
	情報の扱い方に関する事項	80.8	85.0	78.9
	我が国の言語文化に関する事項	86.8	90.2	84.2
	話すこと・聞くこと	70.5	72.1	67.8
	書くこと	57.9	65.5	51.8
観点別	読むこと	66.8	68.9	57.8
	知識・技能	82.3	84.4	80.5
	思考・判断・表現	64.0	68.2	57.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

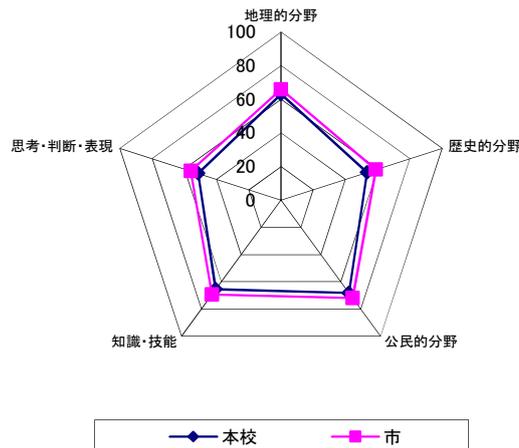
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は81.9%で、市平均を1.7ポイント下回った。 ○漢字の読みの正答率は、いずれも市の平均を上回った。また、故事成語に関する問題も、市平均を1.6ポイント上回った。 ●漢字の書きの正答率が、市平均をやや下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字については、授業で行っている漢字テストや漢字練習の課題の成果であると言える。今後も、継続して取り組んでいくとともに、漢字の書き(送り仮名も含めて)に一層力を入れて指導していく。 語彙力を身に付けさせるために、授業の初めに意味調べの時間を設けたり、教科書の単元末にある「広がる言葉」のページを活用したりしていく。また、読書を推奨することで、語彙力を向上させていく。
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は80.8%で、市平均を4.2ポイント下回った。 ●事象のまとめ方に関して、どのような規則性をもって表記されているかを読み取ることが困難であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段からメモをとったり、ノートにまとめたりする際に、原因と結果の関係を意識しながら、規則性・一貫性のある表記のしかたをすることを心がける必要がある。授業においても、文章の要旨を整理したり、情報を整理する活動を取り入れ、論理的思考力を身に付けさせていく。
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は86.8%で、市平均を3.4ポイント下回った。 ●初めて目にする古文の内容を読み取る問題であったが、文章に対する理解が不十分であると言える。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代になじみのない言い回しや聞き慣れない単語にこらわれず、類推しながら文の内容をつかもうとする態度が求められる。また、人物関係がしっかり把握できることも、内容理解の上で大切である。日頃の授業において、初見の古文の内容をできる範囲で生徒に予想・表現させた上で、「誰が誰に何をしたのか」を意識させながら、詳しく読み進めていくよう指導する。また、古文そのものだけでなく、当時の時代背景や文化についても触れながら、古典に親しめるように指導していく。
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は81.9%で、市平均を1.7ポイント下回った。 ○自分の考えを分かりやすく伝えるよう、表現上どのような工夫をしているかを問う問題は、正答率が市平均を上回った。 ●聞き手の助言や疑問に答える形で、話す内容を修正する問題は、正答率が市平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の授業や学校生活においても、相手が話す内容の中に新しい情報が多く含まれると、理解が不正確になる傾向が見られる。今後の授業で、聞き取りテストなどを通して聞く力を育成するとともに、目的に沿った内容であるかなどを十分に吟味した上で、自分の考えや意見を発表する習慣を付けさせていく。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は57.9%で、市平均を7.6ポイント下回った。 ●いずれの問題も大きく市平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書くことへの苦手意識を強くもっていることが読み取れる。自分の思ったことを自由に書くのであれば可能だが、文脈や条件といった制約下で、ふさわしい文章を書くことに抵抗感をもっているものと思われる。聞く力や読む力との関連性も図りながら、授業で説明的文章・文学的文章のいずれにおいても、自分の考えを書いて表現する活動を取り入れていく。また、自身の文章を推敲させることで、正確で分かりやすい文章を書く力を養っていく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は66.8%で、市平均を2.1ポイント下回った。 ○●文学的文章に関する問題は比較的正答率が高いが、説明的文章に関する問題は正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校生徒は読書への取組が消極的であり、そのこととの関連性が強いと考えられる。日頃読みやすい本を選んで読んでいくと、文学的文章の表面をさらうことはできても、抽象度の高い文章や説明的文章を理解するには至らない。ときには、難度の高い文章にもチャレンジし、読解力や理解力を高めさせていかなければならない。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	63.1	66.0	57.8
	歴史的分野	53.4	58.9	51.4
	公民的分野	68.2	72.0	72.2
観点別	知識・技能	65.5	69.3	62.9
	思考・判断・表現	51.4	56.0	49.1



※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

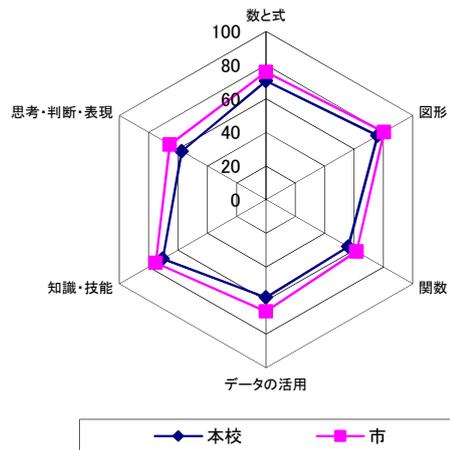
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は63.1%で、市平均を2.9ポイント下回った。 ○地図や統計資料をもとに、地域の特色を読み取る問題については正答率が比較的高く、基礎的な資料の見方や用語理解は概ね定着していると言える。 ●「日本の地形」「日本の農畜産物の生産高」「日本の各地方の特色」など、2年次の学習内容が定着していない傾向が顕著に見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図や統計資料を読み取る際に、どの部分に着目すればよいか、数値の増減や地域間の相違に着目させながら、具体的に示していく。また、その事実が何を意味しているのかを、短文で表現させるなどの活動を通して、地域的特色を深く考察・表現しようとする態度を育成していく。 ・授業等で1・2年次の学習内容を復習する機会を設けることで、知識の一層の定着を図っていく。
歴史的分野	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は53.4%で、市平均を5.5ポイント下回った。 ○●1年次前半の学習内容は、いずれも市平均を上回っているが、2年次の学習内容に関する問題の正答率が、大幅に低くなっている。時代が進むにつれて事象や人物関係等が複雑になっていくことに、対応しきれていないことの表れであると言える。 ●出来事背景や因果関係を問う問題、複数の資料を関連付けて判断する問題は、とくに正答率が低い傾向が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的事象を、単発的な知識としてではなく、原因や結果を関連付けてとらえさせていく。因果関係や人物関係を図に表現したり、文章で表現する活動を通して、歴史の大きな流れを意識させる。 ・資料を用いた学習においては、内容を読み取るだけにとどまらず、「この資料から何が分かるのか」「何を判断するための資料なのか」を考えさせたり、複数の資料を結びつけて考察させたりすることで、思考力・判断力の育成を図っていく。
公民的分野	<ul style="list-style-type: none"> 正答率は68.2%で、市平均を3.8ポイント下回った。 ○授業で取り上げたことがある資料の空欄を埋めるような問題は、正答率が高くなっている。 ●なじみのない資料を用いた問題は、正答率が低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化など、知識としては理解していても、資料と関連付けてとらえるところまでは至っていないと言える。授業においては、教科書にない資料を取り入れたり、最近のニュースに関連する資料を取り上げたりすることで、資料と事象を関連付けようとする態度を身に付けさせていく。また、知識の定着に不安があることも一因として考えられるので、基礎的内容の更なる定着を図っていく。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	70.6	76.0	69.0
	図形	76.0	80.5	67.7
	関数	56.0	61.6	55.0
	データの活用	58.2	66.5	56.4
観点別	知識・技能	70.3	75.1	69.4
	思考・判断・表現	57.4	65.6	47.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

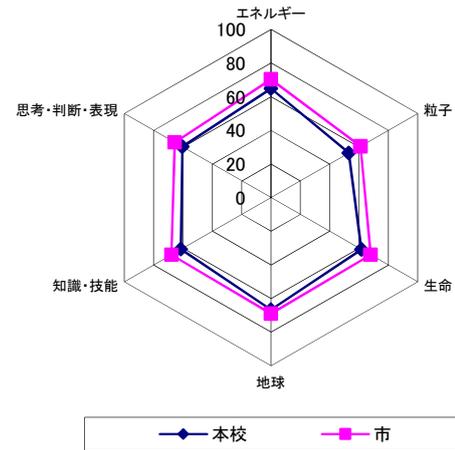
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は70.6%で、市平均を5.4ポイント下回った。 ○平易な乗法の問題では、正答率が市平均を1.6ポイント上回っている。 ●乗法公式を用いた問題や平方根の大きさを比較する問題、平方根の計算問題は、いずれも正答率が市の平均を大きく下回っており、3年次の学習内容が十分に定着していないことが読み取れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の授業の中で計算練習や小テストを行っており、基本的な計算技能が徐々に定着してきているといえる。しかし、計算が複雑になっていくごとに正答率が下がっていくため、平易な計算練習にとどまらず、少しずつ難易度の上がる計算練習も取り入れていく。また、既習事項を復習する機会を逐一設けることで、学習内容の確実な定着を図っていく。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は76.0%で、市平均を4.5ポイント下回った。 ○図形の平行移動に関する問題、及び合同条件を根拠に2つの角が正しいことを判断する問題は、比較的正答率が高い。 ●おうぎ形の面積を求める問題、対称移動の対応する点の問題、補助線を引いて角度を求める問題など、図形の基本的な性質の理解を問う問題や、技能を用いる問題の正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な技能を問う問題の正答率が低いことから、問題演習の不足が考えられる。平易な問題を数多く解くことは言うまでもないが、出題する問題の難度を少しずつ上げていくことで実践力を高めるなどの工夫が必要である。 ・図形に関する基本的な概念について、さらに丁寧に指導していく。頭の中でイメージすることが難しい生徒のためにも、実物模型等を使用するなどの工夫が求められる。
関数	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は56.0%で、市平均を5.6ポイント下回った。 ○比例の性質に関する問題、二次関数に関する難度の低い計算問題については、正答率が比較的高くなっている。 ●反比例の立式、1次関数の増加量の問題は、平易な問題であるにもかかわらず、正答率が市平均を大幅に下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関数領域を苦手とする生徒は非常に多い。1年次の学習内容に関する正答率が低いことから、関数の基本的な概念の定着が不十分であると考えられる。日常的な事例を挙げることで、関数がどのようなものであるかをつかませていく。また、1次関数について補足的に復習する機会を設けていく。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は58.2%で、市平均を8.3ポイント下回った。 ●いずれの問題においても、正答率が市平均を大きく下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・データ活用に関する基礎的な考え方が理解できていないことが考えられる。新出の用語の意味を着実にとらえさせるとともに、問題演習を通して数値の求め方を定着させていく。 ・箱ひげ図の書き方や読み取り方が十分に理解できていないので、問題演習をする時間を設けていく。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	64.8	70.3	59.4
	粒子	53.0	61.1	56.4
	生命	61.6	67.9	62.7
	地球	66.7	69.1	65.6
観点別	知識・技能	61.4	67.9	63.8
	思考・判断・表現	60.5	65.7	57.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

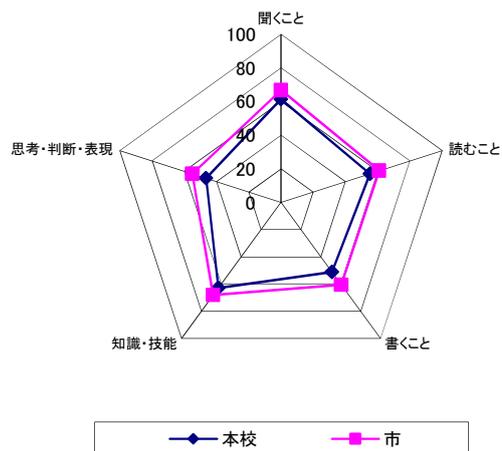
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は64.8%で、市平均を5.5ポイント下回った。 ○光の性質に関する問題はいずれも正答率が高く、3問中2問が市平均を上回った。 ●コピー機のしくみ、仕事とエネルギーに関する問題の正答率は、いずれも市平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・光の性質に関する問題は、日常生活でなじみのある鏡に関するものであり、生徒にとってイメージしやすかったものと考えられる。一方で、コピー機に関しては、なじみのない部分で、イメージしづらかったものと考えられる。今後の授業において、学習内容を日常生活の様々な事象と結びつけて考えさせることで、概念をわかりやすく理解させていく。
粒子	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は53.0%で、市平均を8.1ポイント下回った。 ●「水溶液の性質」「化学変化と物質の質量」「水溶液とイオン」について、いずれの問題についても市平均を大きく下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本分野においては、全体的に基礎的な知識や概念の理解が不十分であるといえる。授業において、既習事項を復習する機会を設けることで、知識の定着を図っていく。原子や分子、イオンなどについては、モデルや映像などの教材を使うことで、生徒がイメージしやすいようにする。また、グラフの読み取りや実験の際に、そのグラフが何を示すものなのか、実験が何のためのもので、結果が何を意味するのかを理解できるように、継続的に指導していく。
生命	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は61.6%で、市平均を6.3ポイント下回った。 ○脊椎動物の分類に関する問題、蒸散の実験に関する問題、遺伝の形質に関する問題は、正答率が比較的高かった。 ●「外骨格」「気孔」「遺伝子」の名称を問う問題の正答率が著しく低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な用語の着実な定着を図る。ノートに整理する際に、教師が板書したものをただ書き写すのではなく、表の形でまとめさせる、実験結果について比較しやすいように記述させる等の工夫をすることで、知識を系統的につかませっていく。
地球	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率は66.7%で、市平均を2.4ポイント下回った。 ○地震に関する問題は、いずれも良好な結果であった。 ●気象に関して、天気図から低気圧を読み取る問題では、正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な概念の着実な定着を図る。日常生活と結びつけて考えさせるとともに、なぜ高気圧は下降気流になるのか、時計回りになるのか等を説明することによって、単なる事項の暗記にとどまらないよう工夫していく。

宇都宮市立若松原中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	61.4	66.8	61.5
	読むこと	55.2	60.9	55.5
	書くこと	51.2	60.5	50.9
観点別	知識・技能	63.0	68.1	64.1
	思考・判断・表現	46.5	55.0	45.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>・正答率は61.4%で、市平均を5.4ポイント下回った。</p> <p>○英文の内容に合った絵を選ぶという、内容理解を問う問題は、比較的正答率が高く、市平均を上回る問題もあった。</p> <p>●対話の流れを踏まえ、ふさわしい適切な文を選択するという思考・判断の問題は、いずれも正答率が低い。</p>	<p>・リスニングに関しては正答率が低い問題が多く、生徒の聞く力を重点的に育成していく必要がある。授業はもちろんのこと、授業以外でもALTとコミュニケーションを図る場面を設け、聞く力を継続的に育成していく。</p> <p>・ALTとのコミュニケーションやスモールトークでは、聞き取った内容に対して「Why?」や「Tell me more.」と問い返す活動を強化する。また、相手の話を理解した上で、さらに情報を引き出す活動を積極的に取り入れていく。</p>
読むこと	<p>・正答率は55.2%で、市平均を5.7ポイント下回った。</p> <p>○ポスターやチラシなどの資料から必要な情報を把握する問題では、比較的正答率が高かった。</p> <p>●まとまった量の英文を正確に読みとる必要がある問題では、正答率が低くなっている。</p> <p>●文法に関する問題では、いずれも正答率が市平均を下回った。</p>	<p>・授業では、文法や単語を意識しながら英文の内容を正確に把握させるとともに、英文の場面を頭の中でイメージしながら読んだり、未習の語彙があっても前後の文脈から意味を推測したりするよう助言する。また、初見の長文を扱う機会を増やすことで、粘り強く英文と向き合う態度を育てていく。</p> <p>・授業で既習事項に関する発問をしたり、復習する機会を取り入れることで、文法事項の定着の徹底を図る。</p>
書くこと	<p>・正答率は51.2%で、市平均を9.3ポイント下回った。</p> <p>●単語の並べかえの問題、対話の流れに沿った英文を考える問題、自分の考えや意見について理由とともに説明する問題の正答率が、いずれも市平均を大きく下回った。</p>	<p>・授業の書く活動において、「主張＋理由・説明」の構成スキルの向上を図る。まとまった内容の英文を書く際に、単に文を並べるだけでなく、「理由(Because...)」や「具体例(For example...)」を用いることで、思考に深まりのある論理的な英文が書けるよう継続的に指導していく。また、スモールトークにおいて、自分が表現できなかった言い回しをノートに書き留める習慣を付けさせることで、表現の幅を広げていく。</p>

宇都宮市立若松原中学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
望ましい学習態度の定着	各教科担任が、チャイム着席、授業開始・終了時のあいさつ、座る姿勢、人の話を聞く態度など、生活指導を重視しながら日頃の授業を行っている。	・学習と生活のアンケート1(6)【ア 授業への取り組みについて】の項目は、いずれの学年においても良好な結果であり、教師間の共通理解のもとに指導がなされていることがわかる。昨年度課題として挙げたプリントやファイルの整理整頓、課題の提出期限の厳守については、さらに踏み込んだ指導が必要である。また、本校の生徒は授業中の教師の問いかけにも積極的に反応するが、ともすると授業で何がわかったか、何を身に付けたかを見失いがちである。学習環境を幅広い意味でとらえ、適切なタイミングで適切な意見を述べる雰囲気をつくっていくことで、「学び合い」の効果がより高まるものと思われる。
家庭学習の習慣化	学校全体の取組みとして、学芸委員会を中心に家庭学習「チャレンジノート」の提出を行っている。	・学習と生活のアンケート1(5)「一日にどれくらい学習しているか」の質問に対しては、とくに「チャレンジノート」提出を学年として重点的に行っている1年生において、「平日1時間以上」が42.3%(市平均41.8%)、「休日2時間以上」が29.4%(市平均28.4%)と、成果として表れている。まだまだ学年や学級によって取組に差は見られるが、学年及び学校全体として取り組むことで、明らかに生徒の意識も変化する。家庭学習の習慣化という従前の目標に加え、今後はさらに内容を充実させることで、学力向上につなげていきたい。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

①学習意欲の質的な向上

本校の生徒は、授業中積極的に反応するが、今後は学習内容や学習活動を通して「知りたい」「できるようになりたい」と思えるよう、学習意欲の質的な向上を図る必要がある。そのために、各教科ごとに教材研究をさらに進めたり、活動を工夫したりするなど、教師の研鑽が不可欠となる。話し合い活動においても、話し合いの質を高めさせ、グループやペアで出てきた意見を学級全体で取り上げたり、他の学級においても「こんな意見が出た」と紹介するなどしていくことで、生徒が話し合いそのものに価値を置くようになり、学習意欲の質的な向上が期待できる。

また、本時の目標は何か、何ができるようにしなければよいかを、生徒に自覚させていくことも重要である。ICT機器を用いた学習に関しても、何のために機器を用いているのかを生徒が自覚していなければ、「日常生活でもこういうときに機器を使ってみよう」と考えようとする汎用性は身に付かない。

②家庭学習の定着及び質的な向上

生徒の家庭学習に対する意識付けとして、次年度も家庭学習「チャレンジノート」の提出を全校ぐるみで行っていく。まずは「毎日提出」を重視するが、徐々に質的な向上を図っていく必要がある。気軽に取り組める漢字練習や英単語練習、数学の計算に偏りがちなので、「授業で学習した内容を工夫してまとめ直す」「授業で疑問に思ったことをさらに詳しく調べる」「時間がある休日には、時事ニュースや自分の関心のあることについて調べまとめる」など、教師側が例を示していく。また、効果的な自主学習を行っている生徒のノートを紹介することも、生徒の意識の高揚につながる。

現状では、大部分の生徒がノートを朝の登校時に提出しているが、登校後休み時間や昼休みにやっている生徒も若干名見られる。安易に漢字・英単語練習、計算を出してくる生徒は、家庭学習に価値を置いておらず、時間や労力をかけようとする意識が低い。先述のように、テレビや動画視聴、スマートフォン・携帯電話に多くの時間をかけている本校生徒の現状に鑑みると、保護者の理解・協力も仰ぎながら、限られた時間で効率的な家庭学習を行うよう生活面から指導していく必要性がある。